

どんびま

2009年3月16日発行
発行者 椈の湖農業小学校

風 調 雨 順

前椈の湖農業小学校校長の鎌田宮雄先生の奥様から、注文の新酒を届けに行った折、色紙をいただいた。

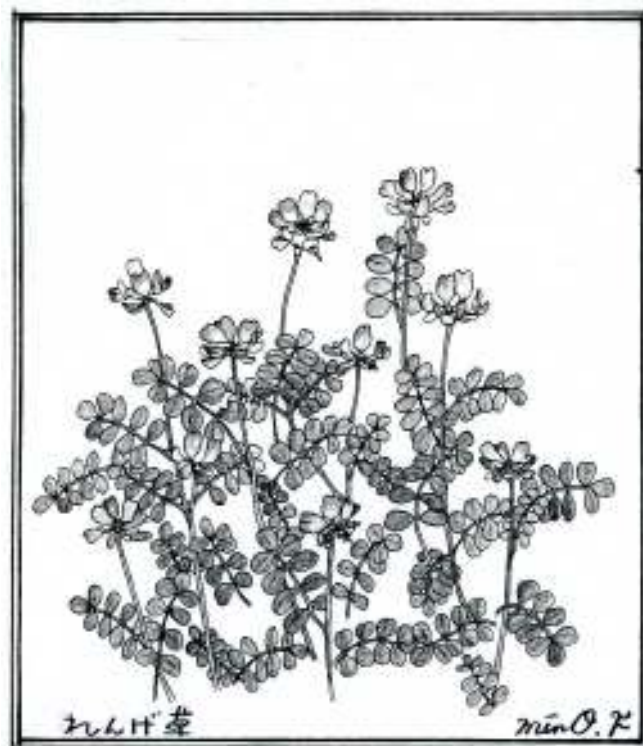
「風調雨順」

(かぜととのい、あめしたがう)と読む。

風雨のよろしきを得て、豊年の兆しあるという意味だそう。まさに地球温暖化が進み天候異変が日常になっている時だけに、農家は季節にあった、らしい陽気を願うばかりだ。

今の世の中、天候だけでなく、あたりまえのことがあたりまえでなくなっていることが多すぎはしないか。

「風調雨順」のことは、乾いた土に降る雨のように、心にしみる。(草)



3月授業日のご案内

- | | | | |
|----------------|---|------------|--|
| ●日程 | 3月29日(日) | ●服装 | 作業のできる服装 |
| 受付 | 9:00~9:30 | ●持ち物 | 手袋、タオル、長靴、雨具、
エプロン、食器(皿、汁用椀、湯のみ)
箸 |
| 入学式 | 9:30~11:00 | ●昼食 | 五平餅(グループ活動の中でみんな
で作ります)・豚汁など |
| グループ紹介 | | | |
| 学校・農場の説明 | | | |
| グループ活動 | 11:00~12:00 | | |
| 昼食 | 12:00~13:30 | | |
| 授業 | 13:30~15:00 | | |
| じゃがいも植え | | | |
| ほうれん草・にんじんの種まき | | ●返信はがき締め切り | 3月24日(厳守) |
| 終わりの会 | 15:00~15:20 | | |
| ●問い合わせ・緊急連絡 | TEL 0573-75-4417 ・090-5110-9362 (山内總太郎)
TEL 0573-75-2109 (椈の湖自然公園管理棟) 当日のみ | | |

～とくちゃんの農小レポート～

課外授業(ものづくり教室)レポート

第15期「椈の湖農業小学校」は今年の11月に無事卒業式を終えました。その後農閑期を利用しての課外授業(物作り中心)の、取り組みについて報告いたします。

*12月21日。 縄ない、注連縄^{しめなわ}づくり。

午前中は縄ないの練習を中心に行い、午後は注連縄作りに挑戦しました。×縄は左縄のため苦勞しましたが、頑張って立派な×飾りを持ち帰りました。

参加者6家族17名。

*1月11日。 凧^かづくり、凧揚げ。

12月にお渡しした凧用紙に絵を描いて持参し、午前中に和凧が完成しました。お昼は地元のイベント「左義長」「人形供養」の皆さんによる「御振る舞い」にあずかり、美味しい料理を腹いっぱい堪能しました。午後の凧上げは100メートルの凧糸が伸びきる物もあり歓声があがりました。

参加者6家族14名。

*2月15日。 染物。

今回は「キハダ」(漢方薬)を使っでの絞り染めを行いました。各自が持参したハンカチ、タオル、Tシャツ等のほか、加藤先生が用意された布地も利用して、真黄色の絞り作品が出来上り大変満足そうでした。

参加者5家族8名。

～とくちゃんのちょっと一言～

今回で3年を経過した課外授業ですが、今回から新築の「下野いきいき会館」が利用出来るようになり、施設、設備ともに完備していますので、次回からはもう少し幅広い授業が可能ですので、参加者の皆さんのご要望を取り入れた内容の授業にしていきたいと思えます。

場所的(旧福岡町下野)にはやや分かり難い点もあり、冬場のため雪の心配などで予約キャンセルも有りましたが、天候の加減では道路(R257)は充分手入れが出来ていますので心配有りません。また電車とバスで来ている方も居ますので交通機関を利用するのも一案かと思えます。

更なる皆さんのご参加を得て、内容的にも充実した課外授業が進められたら良いなと思っております。

～安保兄の百姓ぼなし～ 暖冬に自国の食農を考える

3月に入って桜開花予想が発表された。今年の開花はかなり早いらしい。恵那山(2190m)もいつもの年と思うと残雪が少ない。冬の暖かいのは暖房光熱費は少なくてすみ、山道坂道の多いこの地方でも凍結によるスリップ事故が無い(極めて少ない)など暮らしやすい冬だった。

だが、冬期は寒くなくてはいけないことがある。何年か前に沖縄の桜が低温時期が十分でないために「休眠打破」がずれて、かえって開花時期が遅れたことがあった。また、暖冬は異変を引き起こす。野菜の敵である虫たちも生き残り隊が春早く出てくるし、熊も冬眠をしないで出沒をする。さらに心配なことは冬に高い山に雪の少ない年は夏の水不足をまねく。稲作に必要な水が不足すれば不作・凶作が心配だ。

それでなくても、日本の農業・食糧は大きな問題をかかえている。

食糧自給率の低下だ。カロリーベースで40%と先進国の中では最低に落ち込んでいる。日本は自動車や家電などの工業製品を輸出し、そのもうけで食糧を買ってきた。世界的な大不況の中、輸出産業は不振で貿易収支は赤字だという。今後、世界的に農産物不足と価格の上昇が見込まれ、食糧の確保はより難しくなっていくだろう。さらに輸入先の「食の安全」に不安があっては、是が非でもわが国の農業が見直されなければならないのに、根本的な農業(改革)政策は見えてこない。党利・党略の小出しの政策では到底自給率を上げる解決策にはつながっていかないと思う。

同じ島国であるイギリスでは1961年に42%まで低下した自給率を70%まで引き上げるに、新しい農業政策でもって20年かかったという。

自給率を上げるには農業の生産力を上げるしかない。今、日本の農業就業者は約300万人で、そのうち65歳以上が6割を占めているという。「65歳以上で10年後に働ける人は半分以下。つまり10年後には100万人の労働力が足りなくなる。」と指摘する学者もいる。政府は新規就農者の農業研修に補助をするというが対象はわずか1千人だという。10年かかっても1万人にしかならない。なんともサムイ話だ。

この地方でも、戦中・戦後の食糧増産に頑張った「じいちゃん」たちや、留守番をしながら営々と野菜を作り続けてきた「ばあちゃん」たちがリタイヤしている。あぼ兄たちは20年程前から農離れで後継者のいない村と農地を守るために農作業請負グループをたちあげた。30haの耕起から収穫まで走り回ってきたが、そのあぼ兄も3月で71歳になってしまった。



こんな小さなところで叫んでいても、なんら解決策にはならないかもしれないが、国産国消、地産地消を考えながら15年が過ぎました。今年も新たに「自分で食べるものを自分で作って」「自然の美しさや厳しさ」を、「農の楽しさ大変さ」を体験してみましよう。

お手伝いをするあぼ兄です。出会い、再会を楽しみにしています。今年一年、よろしくお願ひいたします。

